

## 5月麻績村教育委員会定例会議 会議録

令和4年5月6日(金)

午前9時30分～

地域交流センター第3・4研修室

出席委員 職務代理 市ノ瀬淳一 委員 小山正文  
委員 宮下温子 委員 小松小百合  
出席職員 麻績保育園長 塚原京子 麻績小学校長 佐々木英明  
筑北中学校長 臼井伸明 教育長 加瀬浩明  
次長 臼井太津男 子育て支援コーディネーター 高野智弘  
主事 龍頭詩織

### 一 開会(臼井教育次長)

定刻となりました。令和4年5月の麻績村教育委員会定例会を始めます。  
よろしくお願いいたします。

### 二 教育長挨拶(加瀬教育長)

### 三 報告

臼井次長: それでは、報告事項に移ります。教育長報告をお願いします。

#### 1. 教育長報告

教育長: お願いします(以下、資料に沿って説明)。

臼井次長: ありがとうございます。只今の教育長報告についてご意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、続いて保育園長報告に移ります。園長先生お願いいたします。

#### 2. 学校長・保育園長報告

##### 1) 保育園長報告(塚原園長先生)

塚原園長: よろしくお願いいたします(以下、資料に沿って説明)。

臼井次長: 只今の保育園長報告についてご意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは続いて小学校長報告に移ります。小学校長お願いいたします。

## 2) 小学校長報告(佐々木校長先生)

**佐々木校長:** よろしくお願ひいたします(以下、資料に沿って説明)。

**白井次長:** 只今の小学校長報告についてご意見等ございましたらお願ひします。よろしいでしょうか。それでは続いて中学校長報告に移ります。中学校長お願ひいたします。

## 3) 中学校長報告(白井校長先生)

**白井校長:** よろしくお願ひいたします(以下、資料に沿って説明)。

**白井次長:** 保育園長、小学校長、中学校長それぞれからご報告をいただきましたが委員の皆様からご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、協議事項に移ります。

## 四 協議事項(加瀬教育長)

### (1) 新型コロナウイルス陽性者発生に係る対応について

**教育長:** 冒頭に申し上げた通り、新型コロナウイルス感染症につきまして、保育園のほうで4月13日に出たということで対応いたしました。4月はもうほぼそのことの対応でということで、大変苦勞をした訳でありますけれども、ようやく収束の兆しというような形で見えてきている状況であるということで、ここまでの状況について保育園のほうから報告をしていただいて、全員で情報共有をし、その形で進めたいと思います。傍聴者の方いらっしゃるんですが、大変申し訳ありません。ここのところ個人の名前が出てくる場所がありますので、「(1)新型コロナウイルス陽性者発生に係る対応について」のところにつきましては、申し訳ありませんけれどもご退室いただきたいと思います。

**白井次長:** それでは私のほうから資料に沿って説明をしたいと思います(以下資料に沿って説明)。経過としまして説明させていただきました。以上です。

**教育長:** 園長のほうから何かありますか。

**塚原園長:** 特に良いです。本当に今回のことは保育園のことだったんですけれども、教育長さんと次長さんが本当に早く色々整えてくださったので、本当にトラブルもなく保護者に通知ができたということと、オクレンジャーが幸いもう機能できるように整えてあったということが、一気に送信できたりとかお伝えすることができたので、改めてそこところはタイミングが良かったと言えればあれなんですけれども、助けていただきました。ありがとうございます。

ございました。

**教 育 長:**佐々木校長は何かありますか。

**佐々木校長:**2名ということで良かった訳ですが、1名⑥の児童については、最終登校2日間のところが「子どもたちとの接触はない」ということだったので、この子の発症については一切オクレンジャーで配信をしておりません。⑧のお子さんについては、発熱日が何日になるかによって、「1日かかるかもしれない」ということで、オクレンジャーで配信し、1日は念のためということで学級閉鎖にしたということがあったんですが、今後のこと考えた時に、「子どもたちに影響がない」という判断であれば特に連絡をしないというこの方向で良いのか、それとも出た時には一応「出ました」という報告をした上で「対応をしているので大丈夫ですよ」というようなメール配信をしたほうが良いのか、ここはちょっとどうしたら良いかなと、たぶん統一しておかなきゃいけない、保育園も中学校も皆一緒かなと思うんですけど、どういう風にすれば良いのかなということを1つ思いました。

**教 育 長:**そこら辺に関連して何かあればお願いします。基本的にはその時の状況によっても全く違ってしまおうとは思いますが。

**塚原園長:**保護者の皆さんはあまり保育園のほうにはあまり色々な要望とかなかったんですが、ただちょっと1、2件「どのクラスから出たというところは教えてもらえれば」という要望はありました。ただもう濃厚接触者は、2人目が年長児で出た時点では「年長クラス」とお知らせしたので、そのところで少し安心されたのかなというか、結局閉園措置取ったので、そのところの感染を広げる状況では良かったんですけども、ちょっと「不安になった」というところはあったので、今後どの程度までお知らせするかというところは決めておいていただければありがたいところかなと思います。

**佐々木校長:**苦情というか、2件電話がありました。「小学校出ているのに連絡寄こさないじゃないか、どうして早く教えてくれないの」とか、やっぱり「うちの子に関係するのか」みたいところを、当然「個人情報なんでお答えはできない」ということで「これ以上のことはお話しできませんよ」という対応をしているんですけど、そうすると今の話、子どもたちが関係ないなと判断しても出たという事実をどう伝えていく、それもひょっとしたらその方にとっては少しは安心材料になるのかなとか、そんなことを考えましたね。

**白井校長:**その状況によると思うんですけども、ある程度の情報は流していかないと、お家の方は状況を知れば安心する方も多いと思いますので、どれだけのところのレベルは相談をしながらと思いますけれども、ある程度のことは伝えた上で丁寧に対応していくというのが良いかなと思います。伝えていかないとたぶんお家の方の情報網のほうが強いから、そこよりも先に何

らかの手を打っていったほうが後手後手にならなくて良いような気が自分はするので、教えられる範囲だけ、「年長」までいけるのか、まず「保育園で発生しました」といって連絡するのか、ある程度のところは伝えたほうが安心するんじゃないかなと思うんですけど、「個別は後で対応します」みたいな連絡をすとかという、ちょっと自分はそんな雰囲気はしません。

**教育長:**基本的には、感染者が出た学校関係、保育園等含めて出た場合には、そのことに関してはお伝えする。状況によって早く帰さなきゃいけないとかいうようなこと、基本的にはそのことがわかるまではなるべく対応取ってしまったほうが後でよりも良いかと思しますので、その「感染者が出た」というところでわかる情報のところまで、影響のないところまでお知らせする方向で、まあ保育園のほうはほぼその形でやったかと思うんですが。

**塚原園長:**そうですね。当日初め午後に閉園措置取った時にはなかったんですけど、翌日「教えてください」と、そこは教育委員会と連絡取って、「接触は同じクラスなので、ないことはないです」というところではお伝えはしてんですけども。ちょっとお家の方の探り合いというところがやっぱり見えるのはあったのかなと、ただ思っている以上にそんなに園のほうには苦情というところではなかったもので、そここのところは、こちらも何度も何度もオクレンジャーで発信ができたというところでは安心材料にはなかったかなと感じました。

**教育長:**初めてのことだったので、この対応が1つの基準になるかなと思うんですけども、できる範囲でそういう個人的な事情を抱えた方もたくさん居ますし、特に高齢者が一緒にいたり基礎疾患を持っているなんていうような状況であると非常に心配なところであるので、出せるところまではなるべく早い段階でお知らせをするという方向で良いのかなと思っていますが、どうでしょうか。

**小松委員:**そうですね。やっぱりそう思います。それぞれの家庭で知っていれば備えられることもあると思います。誹謗中傷もあまりなかったということですかね。

**塚原園長:**誹謗中傷も、必ず文面の最後には毎回入れてもらって流したので、そんなところでは特になかったと思います。

**小松委員:**なのでやっぱり先程のお年寄りとか家庭の事情によって色々あると思うので、できるだけ差し支えない範囲でお伝えいただければと思います。

**教育長:**「感染者が出た」ということに関してはすぐ、要は保健所の調査等もあつたりその指示があつたり、濃厚接触の特定等が出ないとその先は進めないんだけど、第1報のところはなるべく早くという方向にさせていただいて、その後に関してはそれぞれの事情が出てくるので、それに対応しながらという方向を基本線にさせていただくということで、今後も進めてい

きたいなと思います。一旦収束してはいますが、この先どうなるかは非常に心配なところがありますので、そんな方向で行かせていただきたいと思います。他関連してでも他でも良いですが、いかがでしょうか。

**白井校長:**聞きたいのは、保育士さんはワクチンは受けていましたか。

**塚原園長:**受けていました。3回。

**白井校長:**それでもかかっちゃうんだね。中学生何人か、というかほぼ8割くらい受けているので、これまで県外に行くとかそういう時に何となくの情報で、「受けていればこんな感じに対応すれば良いな」ということは思っていたんですけども、そここのところのワクチンを受けていてもなっちゃうところではちょっと危険だなと思いました。

**塚原園長:**「先生、やっぱりワクチンの効果はすごい」とかという風にそのお母さんはおっしゃっていましたが、今日見えたお家の方も、年長児の子が1回だけワクチンを打っていたから、「すごく軽く済んだ。熱が出たけれども翌日には下がった」と。お父さんとお母さんも結構苦しんではいたんですけども、「でもワクチンの効果はあったんじゃないか」と言っていました。

**白井校長:**強制する訳にはできないんだけど、ワクチンの有効性は、ここで決める訳じゃないけど、やっぱりあるということですね。

**塚原園長:**そうですね。そういうお話は聞きました。

**教育長:**感染する可能性はあるけども重症化しないというかね、症状も和らぐというか、効果はやっぱりあるんだろうなと思います。

**佐々木校長:**インフルエンザと同じという感ですよ。そういう話が増えてくるとね。

**塚原園長:**そうなんですよね。

**佐々木校長:**「そういう話を聞きましたよ」みたいな話ができるので。

**教育長:**ありがとうございます。他いかがでしょうか。

**白井校長:**初めてのことだったので、ちょうどPTAの話をした時のお家の方の空気感というか、「え、総会やるんですか」と言って、総会と言ったって20人ばかりしか来ないのに。それで各学級のほうも同じくらい、10人とかだけ「総会」という言葉、「全体が集まる」というところにすごく敏感で、「あ、これは無理しないほうが良いな」と思ったんですけど、やっぱり大波が来た時の対応の仕方というか、これまでなかったからそういう「ちょっと違うな」という感じはしましたね。

**教育長:**まだまだこれから何が起こるかという状況になるかとは思いますが、すぐに連絡いただいて、こちらのほうも一緒に対応しながら考えていく方向で進めていきたいと思いますのでよろしくお願ひします。それでは新型コロナウイルス陽性者発生に係る対応についてはよろしいでしょうか。よろしくお願ひします。それでは、次に移ります。

## (2) 第7次麻績村振興計画に向けて

**教育長:**第7次麻績村振興計画につきまして、事務局からお願いします。

**白井次長:**お願いします（以下資料に沿って説明）。

**教育長:**それでは、今の説明にあった通り、前回のところでもお話をした通り「第7次麻績村振興計画等に向けて、教育委員会としてどんな方向でというようなところ考えていく年だ」ということでお願いをしたところではありますが、総合教育会議で村長からこんな話が出るからそのところを共有しながらになるかなと思いますけれども、現状を見ますとやはり本当に「こんなことが起きるのか」ということがここ数年起きている状況の中で、先が見えない中であるけれども子どもたちを育てていくということで見据えていかなければならないなということになるかと思えます。この第6次麻績村振興計画後期の中をまたちょっと見ていただきながら、次回以降様々な面から話を出していただくということになるかなと思います。実際現況で行くと、私としては学校教育の未来を作っていくのはやっぱりICT教育が中心にこれからきつとなっていくんだらうなど、麻績村だけではなくて、全体としては今そういう方向に文部科学省のほうも流れているかと思えますので、そんな部分のところはきつと中心になっていくんだらうなと思えます。それぞれのところで、今資料をお配りしたばかりですのでなかなか難しいかと思えますが、「こんなことが1つの柱になっていくのではないかな」というような、もしご意見等あればここではお聞かせいただいてそれぞれ検討の材料にさせていただければということでもあります。いかがでしょうか。

**白井校長:**言いっぱなしで良いですか。色々な学校を経験してきて、麻績村の子どもに対する手厚さとかそういうことは感じて、特にお金とかそういう支援とかは良いかなと思っていて、そういう点では義務教育の所までは良い感じかなと思うんですけど、自分が思っているのはやっぱり子どもを育てていただく若い20代とか30代の方々になるのか、まあ自分たちも含めてなんですけど、娯楽とか生涯スポーツとか、若者がいて「この村楽しいな」と思うような、例えば施設があつたりとか物があつたりとか、「麻績村に来て育てたいな」というのはただお金だけじゃないとか、その支援だけじゃないなということは何となく思っています。野球やって楽しい人たちもいるだろうし、うちの娘の婿さんはここに住んでるけどバスケットをやりに毎週松本へ行ったりして、そうやりながら楽しんだりするということなところがあつたりするので、お金のサポート+αなんだけどソフト面とか、そういう「楽しいな」と思えるようなところ、言いっぱなしになりますけど、第二グラウンドの辺りにゴルフの打ちっぱなしでもあれば、ちょこっと夕方行って1時間くらいパンパーンって打って健康にも良いしとか、あそこら辺にウォーキングのコースがあつたりラ

ンニングコースあったりとかっていうようなのがあれば、ちょっと行ってきて戻ってきてというそういうのがあるから、ここで言う場じゃないかもしれないんですけど、そんなところの卒業した後とか、そういうところに「楽しいな」と思えるようなところ、で若者がいれば子どもがもしかしたら増えてくるとかそういうこともあると思うので、そんなことをちょっと独り言ですけど言いました。

**教育長:**ありがとうございます。

**小松委員:**臼井校長、前に「バスケットゴール1つ」というという話もあって、あれもずっと考えていて、「本当にあれば良いよな」って真剣にちょっとあれからずっと考えていたんですけど、でも本当に先程の中学校の部活の件もそうですけど、やっぱり時代が色々変わってきているのかそういうことから部活も見直していかなきゃいけないのかなとか、でもなんかそういう子どもだけじゃなく楽しめるような、そういうところもあっていいんじゃないかなと思います。バスケットゴール、ポンって立たないのかなって、ちょっと小松クリーニングという訳に行かないですけど、ちょっと思っていました。

**宮下委員:**70代の方たちなんかが、それこそマレットゴルフに土日は行って、整備して、村でも大事にしてもらって、ちゃんとやっぱり楽しみがある。でも本当に確かに2、30代と言われると、「そうだなあ…」というのは感じますね。孫と一緒にマレットゴルフ場にうちなんかは付いて行っていますけど、まあそういう利用の仕方もありますけどね。

**小山委員:**校長先生がおっしゃるように、子どもが楽しむということを親が楽しむその場があれば、子どもも必然的に楽しい気持ちになると思いますが、人が少ないということもありますけども、かつては色々野球だとかソフトボールだとかそういう形で色々リーグもあったりしたのが、未だにコロナのこともあったりするんですが、そういうのが段々人も少なくなって先細りになってきている感じはありますが、その辺はなんか今風に合ったような形のものを何か考えていくのが良いと思います。

**教育長:**ありがとうございます。他いかがでしょうか。ここだけということではないので、見ていただきながら、しっかりそれぞれまたちょっと考えを、今年1年かけてこれを作る年でありますので、毎回ちょっとご意見をいただきながら、後半のほうは詰めていかなければいけないとは思いますが、次回総合教育会議のところでもまた出していただければと思います。ありがとうございます。それでは他協議事項のほう特によろしいですかね。

**臼井次長:**ありがとうございます。それでは、その他に移ります。

## 五 その他

## 1) 各委員から

**白井次長:**各委員からということで、委員さんのほうから何かございましたらお願いいたします。

**小山委員:**文化財の支柱というか、私の家の裏のほうに「郷蔵跡」という白の支柱があるんですが、それが倒れ掛かっているんですよね。なので、それ抜いちゃったほうが良いのか、それともどうしたほうが良いのか。倒れれば村道のほうへ倒れるかなという感じはするんですが、そんなに被害が出るほど大きなものじゃないものですから、またちょっと見てもらってお願いします。

**白井次長:**はい。文化財の標柱につきましては、昔はその白く塗った木、大体 20cm 四方くらいの木を立ててあったんですけど、やはりそれがもうかなり前 10 年以上前になりますけど、文化財パトロール、調査の中で「結構傷んでいる部分が多い」ということで、毎年毎年計画的に立て直しを進めているところもありますけども、それ以外でも急な、色々な違う状況によってもきている部分がありますので、また確認させていただいて対応させていただきます。他いかがでしょうか。

**小松委員:**「おみっこ元気くらぶ」がいよいよ開校、今年開校予定通りできるということですか。

**高野CO:**開校の予定なんですけど、今までちょっとコロナのこんな状況だったので、当初 5 月 14 日に開校式の予定だったんですけど、ちょっとこれ延期で、恐らく今考えているのは 6 月中頃になるのかなと予定しています。また決まり次第お知らせはするようにいたします。

**小松委員:**これは信大の学生さんはまた関わることはあるんですか。

**高野CO:**関わることもあります。全部が全部ではないんですけども、今日もちょっと下見にということで学生何名か来られているので。

**小松委員:**たぶん活動がすごい大変だと思うんですけども、どうしても職員数とか見守る手だったりとか、できるだけまたボランティアさんとかそんなような枠組みが上手く機能して活動を支えていけるようにして、またそういう手を借りながら活動がより広がったりとかしていけば良いななんてちょっと期待しています。

**高野CO:**そうですね。

**白井次長:**4 月の定例教育委員会の時も佐々木校長先生のほうからいただいたんですけども、「あまり信大をあてにするとなかなか進まない」という形になって、今も高野のほうに言った通り、信大さんのほうにお手伝いいただくことが出たとしても、その他の部分で進めていきたいなど。あと先程小松委員のほうからボランティアというご意見もあったんですけど、村内のほうでもそういう自然的な体験活動をやっていくというような団体が出始め

ていまして、この間も教育委員会のほう来られてお話を伺ったところではありますけども、そういう中で一緒にやれるようなことがあれば、合わせてやることも必要かなと思っています。

**小松委員:**ありがとうございます。

**白井次長:**他いかがでしょうか。

**宮下委員:**この連休明けにどうなるかという心配もきっと皆さんあると思うんですけども、保育園も本当に今回大変だったなと思うんですけど、発信をしてもらって安心できる材料増やして行って、保護者としては知らずに身近に感染した方が居たりして、今回自分の子どもが知らずに広げてしまったという不安のほうで、2段階不安があるというか、気持ち的にはそういう部分もあるので、イベントやるにしろ人が集まるところは躊躇してしまうという傾向にあるのかなと思うので、少しでも情報がわかれば良いのかなと思います。小学校はこれで「みどりの日」ですよ。麻績の自然と歴史、今麻績宿盛り上がっていますけど、すごく良いタイミングに持ってきてくださったのかなという気持ちもあるので、お天気だけはぜひ晴れてもらいたいなと思っています。小学校これで運動会ですよ、運動会に向けての疲れも出てくる時期なのかなとも思うので、保育園も発熱したらということとキーポイントにして考えていけば、皆の動きも上手くいくのかなと感じました。

**白井次長:**ありがとうございます。他よろしいでしょうか。では事務局からに移ります。

## 2) 事務局から

**白井次長:**事務局からということでご連絡をしたいと思います。まず総合教育会議の開催につきまして、本来通知をお渡ししなければいけなかったんですが、5月17日（火）午前10時ということで、この会場で行いたいと思いますのでよろしくお願したいと思います。続きまして、「地域部活動推進事業に係る県教委との協議」につきまして、5月20日（金）午前10時を予定しております。これは何かと言いますと、今まで県の単独補助の中で「中学校の部活動に対する支援事業」という形で過去ありまして、県のほうは平成30年から事業立ち上げということもありまして、まず「合同部活動・ゆるスポ活動支援事業補助金」がありました。これにつきましては、もちろんその時点で中学のほうについては、野球部とかバスケットボール部とか合同チームというような形で、あるいは「合同部活動」というような形で活動されてきたものであります。それに対しまして、実際に合同でやりますので練習場所、活動場所というのが他の学校に行くことが多くなると思います。そうするとそれに対する運転手を頼んだ場合の送迎の負担金、

負担部分、それからその送迎した車に対するガソリン等燃料費の補助が対象になっていまして、その事業について平成 31 年、令和元年から村のほうも、元年度は中学校は「学校組合」だったんですけど、「学校組合」で手を挙げて認定していただいて、令和 2 年度以降は「麻績村」としてその事業を実施しているところです。その事業については、県の単独補助ということで、「補助率が 2 分の 1」、対象事業については「合同部活動に係る送迎の運転手の謝礼」だとか、あるいは「車の燃料費」という形で充ててきました。こちらにつきまして 4 年度もこれから正式な形での文書が発出されるというような段階になっております。それから同じく県の単独補助でありますけども、「部活動支援員任用事業補助」というものがあります。こちらにつきましても、同じように令和元年度の時は「学校組合」でそれ以降は「村」ということで事業実施に手を挙げまして、採択を受けています。こちらについては「中学校部活動の外部指導者、指導員に関する報酬と賃金」が対象になっておりまして、「補助率 3 分の 2 以内」となっております。うちの中学校については、「外部指導者」ということで、「外部指導者」がいれば一番良いんですけど、なかなか中学の部活が平日ですと 16 時に始まっていくという形の中で、通常であればまだ働いている方、長野や松本等で通勤されている方ですので、なかなかそれが難しいという部分もありまして、今村費職員の先生にその時間から「外部指導員」ということで、要するに任用を変えましてお願いしているという状況になっております。こちら令和元年から 2、3 年と連続して事業採択を受けて補助事業として進んでいるというような段階です。ですので、特にこの「合同部活動」という部分が、実際に 1 つの学校ではなかなかやりきれないというところがあって、それを維持するための県の補助事業ということで村も手を挙げて、それに対する補助を受けてきたというところなんです。それが今回「地域部活動推進事業」という形で、それらを全部含めたような部活動の補助事業と言いますか支援事業という形で、今度は国の事業になってきます。こちらのほうにつきましても、今まで村のほうで県の単独補助に手を挙げていたというところがありますので、今回も前教育委員会で申請に手を挙げていまして、今回モデル事業という感じになるということですが、その採択を受ける方向でということに進んでいきます。こちらについては同じく「合同部活動あるいは他の所に行っている部活動についての指導員の謝礼」でありますとか、「燃料費」あるいはその「車両に係る保険代」もどうも良いような話を受けておりますので、その部分についてという形になります。逆に言うと、そういう部活動等の支援事業については長野県が先行していて、それが後で国になってくるということで、4 月の後半の信毎かなんかにも大きく、その地域の部活動の部分については出ていた訳なんですけど、そういうことに対して国も本腰を入れて支援していく

というような状況になっております。そこで、実際に担当課であります県教委のスポーツ課のほうで説明に来ていただいてということですが、実際に今まで受けていた補助もスポーツ課のほうでありますので、非常にスポーツ課のほうでもこの地区の状況を理解していただいているというところもあるかなと思います。ですので、今回県と地教委と、それから後は中学校でありますので、中学の校長先生、教頭先生にも同席していただいた中で5月20日（金）、場所としては中学校のほうで行いまして、実際に状況をお話を聞く中で一番良い方向にという形にしたいと思っております。それについてはやはり部活動自体が学校の部活動という形よりも地域の中へ下ろしてきて、地域として子どもたちのやりたいことを支援していくというような状況が主になってくるかなと思いますので、どこまでこのモデル事業が補完してくれるのかというところを、あるいはこちらの思いという部分を共有しながら協議をしていきたいと思っております。それがこの「地域部活動推進事業に係る県教委との協議」ということになってくる訳でありますので、また中学校のほうにはのご迷惑を掛けますけどよろしくお願ひしたいと思っております。ここまでで何か質問等ございましたらお願ひします。実際に今年度吹奏楽部についても、生坂村との合同というような形で実際に動いています。特に土曜日の午前中の練習については、生坂中学のほうで練習をするということもありますので、その部分運転手等については親御さんをお願いするだけじゃなくて、ある程度のところは村としても支援していくというような対応を取っておりますけども、今回の部分についてはスポーツ課のほうで来るということもありますので、そこら辺まではなかなか厳しいかなと思うんですけども、新聞等にも書いてありますが、今後は文科系のクラブにもそういうことが発展していくというようなことが書いてありましたので、どこら辺まで出てくるのかなというところも率直に聞いてみたいとは思っております。以上です。よろしいですかね。それでは続きまして、「保護者からの要望について」ということで、説明させていただきます（以下資料に沿って説明）。

**小山委員:**この要望に対して何か返答はするんですか。承っておくだけでよろしいんですかね。

**白井次長:**要望者の部分につきましては「進めていただきたい、協議をお願いしたい」ということでありまして、それが一番の主旨になっておりますので。

**教育長:**皆さんのほうでいかがでしょうか。これで総合教育会議で、これに関して村長のほうにも「こういうのが来ている」という形で示しておきますので、そのところで今後の教育計画という形になってくると思うんですけども、村の方向としてどうかということを確認した上でということになるかなと思っております。

**白井校長:**校長が意見とか言って良いんですか。なるようにしかならないというか、

最終的には村長さんが判断して、筑北村の首長さんと麻績の首長さんが判断、話し合いをして最終的に決めていくと思いますので、それに従うしかないなという感じで、自分は学校長としての立場は、村長さんが考えているのに従う、教育長さんの考えに従うということしか言えないかなと思います。

**小山委員:**教育委員会だけで単独で動ける話じゃないですから、当然行政とも話がありますから、先程教育長がおっしゃったように、村長が出席されるそこでそういう事実の確認をしながら、ということだと思いますね。

**教育長:**他いかがでしょうか。

**白井校長:**年度当初、加瀬教育長さんがお話した学校の教育の質を保っていくということから考えれば、やっぱ学校にいて職員がいるかないかの人数ということは大幅に影響してくると思いますので、まあ統合すれば良いという場合もあるでしょうし、統合したらメリット、デメリットということは当然あって、自分とすればやっぱり学校で職員がいるかないかというのはうんと大事なので、人がいるというほうが教育的効果、色々な部活動等今後連携してできるということも考えるので、そういう点で考えると、加瀬教育長さんのお話しいただいたところの、現時点のところでの交流と一括していくところが、自分ではずっと入ってきているという所ではあります。

**教育長:**他いかがでしょうか。

**市ノ瀬職務代理:**「学校を統合する」とかそんなことを教育委員会でどうこうできない問題ではないと思いますが、筑北村と麻績村で両教育委員会で何か協力していくこと等を話し合うような場があっても良いかなとは思っています。今の部活のことにしろ、色々な行事のことにしろ、授業での連携のこと、まあ学校でやっていただいている訳ですが、そんなのを両教育委員会で相談するというか話し合うような場があっても良いかなとは思っています。

**教育長:**他いかがでしょうか。

**佐々木校長:**小学校のほうも、今学校で我々ができることは何かだと考えた時に、ずっとこのことが私来た時から言われていることで、本当にやっぱり筑北小とどんな連携していけるのかな、そこを今までは本当に違う別々の学校の中で、ということがあるんだけど、リモートがああやって進んだりしたことによって今までになかった繋がりができていくし、本当に時間帯が揃っていたらとか、そうすれば本当に移動もせずにそのまま普通に授業が一緒にできるとかそういうことがあるので、今できること、特に子どもたち同士の関わり合いというのがやっぱり増やしていきたいなと。今年もコロナが落ち着いてくれば直接会ってというような交流もそれぞれ学年でできたらなと思っていて、また9日に北部の教育会の総会のところで同学年会があるんですけども、そういうところでも積極的にそういう連携の仕方みたいところを各学年で話し合ってもらいたいなと思っています。

**小松委員:**やはり今の現状を見ると、確かに課題もいっぱいあって、でもだからこそフットワーク軽く今みたいに連携を取りながらというところで、今できる形の模索というのはしていったほうが良いなとは思いますが、何しろやっぱり学校統合とかそういうことになると、すごく色々な問題が考えなければならないことが沢山あって、ですが打てる手は上手に連携しながらという部分を使って、少ない人数というところを考えると補っていただければと感じます。

**教育長:**他いかがでしょうか。

**宮下委員:**この要望書を読んでいてすごく感じるのが、課題もある中で今の教育環境をすごくこう、私の観点ですけど、全て否定しているようなものに見えて、まあじゃあこれを一緒に協議で押していくという、私も1人の保護者としては良い部分を何も出していただけていなくて「すごく悲しいな」と感じる部分もすごくあって、今行われている交流に対して「この方はわかっているのか」とか、今小学校や中学校で今の時代で子どもたちにやっていたでいるその充実させていただいていることをまずもっと感じてもらいたいなと私はこれを見て思うし、入学を控えているということもわかるんですけど、「家庭でも子どもにまずしっかり向き合っているのかな」という文面だな」という「親の目線での要望の文なのかな」とすごく感じていて、「子どもの声を引き出しているのかな」という疑問もちょっと残るような文ではあるかなと感じていて、難しい問題なんじゃないかなと思います。

**教育長:**他よろしいですかね。

**白井校長:**中学校としては、小学校もそうですけど、現時点でできることをしっかりと見据えて、まあ本当に一番具体的なことを言えば、ちゃんと「聖南中と交流するのにバス出してくれるかな」とか、「そういう ZOOM の環境整えてくれているか」とか、実際に動いて交流をどういう風にしていくかというようなところ、人数がやっぱり関わる相手が増えてくれば当然教育的効果というかその成長には繋がってくるということは確かなんですけども、現時点のこの環境の中でできることということをしっかりと考えて取り組んでいくしかないかなと、今日明日では変わらないだろうし、まあ例えば来年ということにもならないし、ちょっと合併の統合の協議は恐らく時間がかかるとお思いますので、現時点のできることをしっかりと丁寧にやっていくということじゃないかなと思います。

**教育長:**基本的にはこの前、私のほうで6校の校長先生方に全部お願いした形の交流や学年会だとか教科会を充実してくれるという方向で動いていただいているということで良いですかね。

**白井校長:**今度の総会があるじゃないですか、麻績小である時には私のほうからも教科会、まあお願いするしかないんですけども、教科会での連携であると

か、一番近い所は聖南中とか筑北小とかになるんですけど、当然生坂の3村を上手く繋げるような仕組みというか、まあそのために教育長さんをお願いしたいのは、教育委員会同士でしっかりと話をさせていただくというのは自分が言うあれじゃないんですけどお願いをして、そこのところがスムーズに水が流れていくような感じになっていくととてもやりやすいなと思います。

**教育長:**この前お話した通り、そこの部分のところも連休明けのところから次長レベルのところまで全部、その校長間でやるのがスムーズに流れるようにそれぞれ教育委員会のほうに連絡はさせていただきます。

**白井次長:**先程小山委員さんのほうからニーズというようにお話も合ったんですけども、一応なかなかできていない意見交換という部分も、これは「保小中、中学校の将来像」という部分についての意見交換会につきましても要望書のほうには強く要望されていると付け足したいと思います。よろしいですかね。それでは続きまして「中学校の通学バス定期の要望」ということで、実際こちらについては今中学校の場合は6km以上ということで、その生徒さんのところについて通学バスの定期をお渡ししているというような状況があります。その6kmという部分の範囲なんですけれども、実際には一人ひとり各個人の家から6kmということではなくて、大体その地区を1つの単位として概ね6kmというような形としている中で、例えば1つの地区においても6kmを超える方と超えない方というのが出てきているのが実際であります。今回要望を出された方につきましては、下田地区の方なんですけども、実際にはたぶん6km切れるかなと、これは本人でもおっしゃられている部分もあります。ただ、やはり同じ定期券が出ている地域の中で厳密にいうと6km超えてる方、超えていない方という形になってきたらもう1回再度見直しと言いますか、「検討していただきたい」というのも要望の1つであります。特に下田地域については久々に中学校の方が出るというところもありまして、よりそういう思いを強くされているというところもあるところでもあります。またそれに加えて、例えば冬季間についてはなかなか自転車通学という部分について厳しい状況があるというところがありますので、そうすると6kmは当然いかないんですけど、「下井堀地域の子どもについてもやはり今自転車で通われている方についてはある程度見ていただけたらな」というようなことも要望のほうでは出てきているところでもあります。ただそれはあくまでも朝夕のバスの中での路線がある方ということで限定されてしまうので、そうじゃない方についてはなかなか厳しいというところもあるとは思いますが、そういう部分で当然子どもたちにとっては、バスで通う子どもたちについてはその年その年で変更してくるところもありますので、そういう部分で「臨機応変に対応していただければ」というような状況があるようです。特にこの方

の要望については、前年度の中で要望されているということで、学校説明会の時にもそんな話があって、そちらについては「ちょっと動きが見えなかった」と言うので「再度ご連絡させてもらいました」ということもありましたが、ここら辺についてはどこで線引きをしていくか、あるいは冬季間だけどうするかというところも含めた中での検討をしていく必要があるのかなと事務局としても思いましたので今回提起させていただいたところであります。以上です。

**小山委員:**今バス通学が路線がということでしたが、バス通学する中学生はそんな人数は多くないですよ。だから全部出してもたかが知れているような気がするんですけどね。

**白井次長:**学校組合の時は、バスの補助を出していた部分が坂井の真田とかあっちの地区で、掛かった経費の中の補助という形で補助金を出していた訳なんですけども、今は小学校も含めた中で定期をお配りしているような状況でありますので、家庭内のほうの金額のところに跳ね返ってくるということではないということなんです。実際に6kmかからない方については、保護者の方が行ける時は送って行ったり、あるいは冬はどうしたら良いのかなというようなことも実際にあったので、それはちょっと必要になってくるのかなとは思いますが、そうするとじゃあその冬、自転車通学の部分を全部バス通学にするのかという部分もあるので、その辺もかなというところがあります。まあ今小山委員さんおっしゃられて、それでという形になればそれはその方向が良いかなとは思いますが。

**宮下委員:**冬だけじゃなくて雨の日も大変ですよ、実際。

**白井校長:**6kmという基準がどこから来ているかというのがちょっとわからないんですけど、下田はもう6kmはいかないので、6kmと言えば聖南のどこかも1kmくらい行くと思いますので、下田で5kmくらいですもんねたぶん。だからあそこら辺はもう自転車で来なきゃいけないと言って、あそここのところからずっと動線で国道を飛んでくるということを考えれば、とてもまあ、麻績の村の中はどこを走っていても危ないんですけど、ちょっと危険性は高いので、自分としても自転車で通える時は来ても良いと思いますし、冬季間というところもあれですけど、特に冬場については補助とかしていただいたほうが安全面で良いんじゃないかなと思うのと同時に、そのバス通学の定期を渡す範囲もちょっと再検討していただいたほうが良いかなと思います。

**白井次長:**バス通学4km6kmという部分は小学校が4km、中学校が6kmというところで、補助対象の部分で確か線引きがされていた、今は2kmだけど、で今小学校のほうでは2km以上の子どもには全て定期を渡してという形になるので、先程校長先生がおっしゃられたようにある程度全部、子どもの数そうそう多くないので、見直した中で「じゃあ」というところも必要になって

くるのかなと。この方もう1つおっしゃっていたのが、今日向のほうの路線だと4、5、6、まあ4時のバスなかなか中学生は乗れないんですけど、5時6時のバスがあります。下の下田を通過して上の西之久保等を通って行くバスについては今4時6時というバスしかないので、5時台のバスがないんですね。それを「できれば」というようなお話を1回いただいております。前にやはり同じ要望があって、実際に今の路線の系図だとなかなか難しいので、冬のバスだけ今聖高原に、下のバス聖高原行く路線と兼用していたので昔、それで聖湖まで行くとなかなか厳しいということもあって、ただ冬のその夕方の時間帯聖まで行く方ってそうそう居ないというところもあって、市野坂かな、市野川の一番上のところで戻ってくれば5時台のバスで、多少時間ずれるんですけど5時台のバス作れるということがあったので、それはその該当の方、当時その時は西ノ久保に居たと思ったんですけども、そういうところで対応したことはあります。ただこちらについては教育委員会だけじゃなくて実際にバス運行のほうに絡んでくるので、総務課との協議も、もし5時台のバスを作るのであれば必要かなというところが出てくると思います。

**教 育 長:** 基本的にはちょっと、もう一度事務局のほうで状況確認をして対応したいなと思いますので良いですかね。

**白井次長:** ありがとうございます。事務局からは以上です。それでは次回の日程に移ります。

次回の定例教育委員会の日程      6月2日(木)    午前9:30～

## 六 閉会（白井教育次長）

長時間にわたり、ありがとうございました。以上で5月の麻績村教育委員会定例会を閉会します。